

学校教育の現況と平成28年度の戦略について

【A 学力向上について】

1 学力等の現況 (平成27年度都学力調査より)

(1) 都学力調査結果

	国語		社会		算数・数学		理科		英語	
小学校	94.2%	↓	95.8%	↑	94.8%	↑	97.2%	↑		
中学校	101.3%	↓	107.7%	↑	102.3%	↑	100.4%	↑	99.7%	↑

・数値は都平均正答率を100%とした時の市平均正答率を表す

・矢印は前年との比較を表す

(2) 中学校2年生の学力向上の状況【小学校5年生（H24）当時との比較】

	国語	社会	算数・数学	理科	英語
中2 (H27)	101.3%	107.7%	102.3%	100.4%	99.7%
小5 (H24)	96.6%	96.5%	94.7%	97.2%	
H27-H24	+4.7%	+11.2%	+7.6%	+3.2%	

(3) 生活や行動等に対する意識調査結果

①規範意識（肯定的な回答の割合） > 小・中学校とも都平均を上回る

小学校 市：98.2%（H26 96.4%） 都：96.6%

中学校 市：95.3%（H26 93.4%） 都：92.9%

②地域や社会への貢献（肯定的な回答の割合） > 中学校で都平均を上回る

小学校 市：65.2%（H26 65.7%） 都：70.7%

中学校 市：72.4%（H26 66.5%） 都：67.1%

③読書（読書をしないと回答した割合） > 小・中学校とも都平均より不読率が低い

小学校 市：8.3%（H26 13.9%） 都：9.2%

中学校 市：16.6%（H26 22.8%） 都：21.4%

④将来への希望（肯定的な回答の割合） > 小・中学校とも都平均を上回る

小学校 市：90.3%（H26 88.4%） 都：89.1%

中学校 市：75.0%（H26 72.9%） 都：74.6%

- 学力向上 > 補習・小中連携の効果により小・中学校とも基礎学力が定着した
- 学校生活 > 各種支援員の効果により学校生活が安定し、規範意識も高まった
- 地域貢献 > 立川市民科の導入により地域貢献の意識の高まりがうかがえる

2 平成28年度の戦略

基礎学力の定着とともに課題解決型の学力の定着に向けて取り組むために、児童・生徒が主体的に学ぶ授業への転換と学習機会の複線化を行う。具体的には、ICTを活用した授業の推進と研究校制度の再構築による授業力の向上を図る。